

山本、蟻塚さん(清メッキ)最高賞 全国めっきコンクール



技術向上へ意欲新た

めっき技術コンクールで最高賞に輝いた山本さん(右)と蟻塚さん(左)福井市の清川メッキ工業

生労働大臣賞に輝いた。同時に2人が日本一になるのは同社にとって初めてで、今後コンクール出場を通じてめっき技術の向上と伝承を目指していくとしている。

同コンクールは全国鍍金工業組合連合会が主催。今回で27回目で、5部門に476件の応募があった。同社は今回を含めて11回、最高賞を受賞している。

硬質クロムめっきは、強度が求められる機械の表面などに使われる。亜鉛めっきは雨にさらされてもさびびびに建築物の柱などに使われる。

コンクールでは、定められた金属の素材にめっきを施す。光沢不良がないかどうかといった外観や、めっきの厚さなどで優劣を競う。厚さは10ミクロン(100分の1ミリ)にする必要があり、0.1ミクロン単位の調整が求められるという。同社では、過去に日本一になった社員がアドバイザーとして、コンクールの参加者を支援し、技術の伝承につなげている。

山本さんは、昨年度も硬質クロムめっき部門に応募したが、最高賞を逃した。「今回はリベンジという思いで臨んだ」と話し、前回うまくいかなかったためめっきの厚さを研究して雪辱を果たした。

蟻塚さんは入社3年目。亜鉛めっきは、これまで取り扱ったことがなかったという。「同僚と試行錯誤を繰り返して」と話し、「日本一になって自信がついた。いろんなめっきに挑戦していきたい」と話していた。(吉川良治)

本年度の「全国めっき技術コンクール」で、清川メッキ工業(福井市和田中1丁目、清川藤社長)第5製造部の山本雅一さん(57)が硬質クロムめっき部門、第2製造部の蟻塚平さん(21)が亜鉛めっき部門で、それぞれ最高賞の厚く、エルバ内では、ショッピングリハビリ事業の利用者が高齢者向けの商品を取り扱っている店舗で買い物をするなど、特典が得られるといったサービスも検討している。同事業の問い合わせは藤島会の福井九頭竜包括支援センター(0776(57)0040)。

「やすい」 こそも検討

いた。同組合は今後、藤島会以外の事業者とも協力して多くの高齢者の利用を促してい

大手持つ開放特許 食品業者活用探る

福邦銀行(本店福井市)は

11日、大手企業が保有する開放特許と県内中小企業を結び付け、新製品の開発や新事業展開を支援する「知的財産ビジネススマッチング事業」の個別面談会を、福井市の県自治会館で開いた。写真。



近畿経済産業局・県発明協会との連携事業。本年度3回目の面談会では、食品大手のキユーピーが「おでん用ジャガイモの煮崩れ防止」食酢のもろみ粕の有効活用など15種類の開放特許リストを提示。特許

の活用を模索する食品製造など県内4社が商談に臨んだ。農産レストランなど展開のフレス(坂井市)はスイーツの新商品を検討しており、キユーピーの担当者は、カスタードプリンで柔らかな食感が得られる技術などを紹介した。(山口晶水)